



## 作陶とは自然のプロセスで、人間はその一部。私はその中間の役目だと思っています。

### プロフィール

1951年米国オハイオ州生まれ。スキドモア大学で陶芸を学び、1972年来日。その後コルゲート大学芸術科を卒業して再来日。1974年より辻清明氏の下で陶芸を学び、1977年から信楽で作陶生活に入る。1980年より、東京をはじめ日本各地で年数回個展を開催。1983年、水口町に大窯と自宅を築く。

の一部です。そう考えながら仕事をやっているんです。私は、自然からいただき、人に渡す中間の役目だと思っています。

**日本でずっと生活されて、楽しかったこととつまらなかったことを何かお話ししていただけますか。**

楽しかったことは、子どもを育てていくこと。子どもを育てるにはいい環境だったし、仲のいい友達もできましたね。つまらなかったことは、子どもは自分の地域の人たちと一緒に生まれ育てられて学校にも行っている。その中では、仲間の理解があるけれども、その枠から離れて、例えば京都や大阪や東京に行くと、本人にとってはつまらなかもしれない。外見的には外国人のような感じもあるから。それだけが、子どもたちにとってしんどいかなあと。

**ガーリーさん自身は、そういう“しんどさ”を感じられたことはありますか。**

初めて会う人から、外国人ということで、まるで何も知らないかのように扱われることがあり、辛かったですね。

**これからの夢は何ですか？**

今までいろんな作品を作ってきましたけど、いいものを残していきたい。いいものを作りたいなあと思いますね。作りたいものは何でも作れる。野外彫刻とかも、この庭に少しずつ作っていきたい。あとは、近くの子どもたちに、ものを自分でつくる魅力を伝えたいなあと思っています。

**最後に、滋賀県の人に対してメッセージをお願いします。**

みんなで協力して、環境をきれいにしましょう。特に田舎の道では、みんなボーボーとコンビニで買ったものを田んぼに捨てるんです。稲刈りした後の田んぼに、一冬中それがたまっていくんですね。お米作っている人にとっては大変です。ボーボーをしないで、自分の家で捨ててほしいですね。琵琶湖は良くなっていますね。みんなが意識していますからね。身近なところもきれいにしていきたいですね。

**滋賀県に来ることになったきっかけは？**

1972年に大学から日本に半年間留学したのが最初です。日本に滞在して、いろいろな場所で学ぶというのが、その大学の企画でした。そのとき、授業は主に京都で行われ、私は滋賀県でホームステイしました。美術を専攻しており、日本建築と陶芸を特に研究していたので、京都で勉強するのなら、ぜひ信楽焼を研究したいと思っていました。

そのあと一旦帰国して大学を卒業し、アメリカで2年ちょっと勤めて、また日本で就職先を見付けました。仕事は、コピーライターで、毎日、半日だけの仕事だったので、あと半日は陶芸と日本語を勉強しました。そのとき辻清明という、日本ではよく知られている陶芸の先生に出会って、彼を手伝ったりしました。彼はコレクションもたくさん持っているのだから、それを見せてもらったり、使わせてもらったりしました。桃山時代とか鎌倉時代の古い物を日常生活の中で使っているのです。そのうち結婚して、信楽でもう一回やってみたいという希望で戻ってきたんです。それが1977年でした。

**信楽が好きになりましたか？**

焼物は好きですね（笑）。土の独特な明るさ。色とか。それから石みみたいな質感が好きですね。町の方は、昔はちょっと住みづらかった。不便な所で、店は5時に閉まるし、スーパーも何もなかった。国道307号線も山の中のすごい道で、普通の人では走れないような道だった。

**77年からは、今の水口で活動されているのですか？**

いいえ、信楽に住んでいましたが、自分の窯がなくて、人の手伝いをして、空いているときに作ったものを焼いてもらっていました。その後4年ほど大津の田上に住んでいたのですが、ここの土地があいているということで、借りることになりました。そこで、古い家や廃校になった学校の廃材を集めて、自分で家を建てたんです。

廃材を集めるだけで1年半もかかったので、近くに仮住まいさせてもらいながら、窯を最初に作って、次に職場を作りました。そして初窯を炊いて、東京で個展を開きましたね。その後2、3年かけて家の方を作っていました。

**日本で、自分で家を建てるというと、すごく大変なことのような気がするのですが。**

アメリカでも大変ですよ（笑）。自分の考えている形を作ることが好きなんです。特に日常生活に触れるもの。家そのものが生活の器じゃないですか。

自分が昔からやりたいと思っていたことは、他人には任せられない。自分の家や器のイメージがあるから、その通りに作りたいんです。

私の作品を通して、使う人の生活が豊かになればと考えています。だから時間をかけてものを作っているんです。薪を燃やして、窯に入れる作業だけでも1か月かかりますからね。その結果、普通の器に比べて値段も高くなります。でも、そうして時間をかけてイメージし、作り上げた器があると、食卓がより豊かになりますね。そして、そこから話も広がります。器を通してそういう精神的な価値観を作りたいんです。

プロセスがすべて自然だという点でも、信楽の焼きものが好きです。ここにある赤松が燃料になり、いい粘土は山の上にある。粘土をこねて成形して、太陽で乾かして作っていく。すべて自然からいただくもの。人間もそ



信楽の土の肌触りが好きと言うガーリーさんの作品

陶房 〒528-0044 滋賀県甲賀郡水口町山上927  
TEL・FAX：0748-62-9177  
e-mail：fire@cameo.plala.or.jp  
URL：http://www.l2.plala.or.jp/garymoller